水と共に生きる

～強いまちづくりと地域の絆～

川沿少年消防クラブ

私たちの住む地域は、山にかこまれ、札幌を貫通する豊平川が流れ、藻南公園という大きな公園があります。これらによって楽しい事もたくさんありますが、危険な事もあります。みんなが安全にすごせるように地域を歩いて調べてみました。

藻南公園管理事務所に聞きました

Q1 公園内の豊平川の増水が予想される時放送などされますか？

A1 北海道電力から放流する連絡が来て電光掲示板がついて表示されます

Q2 藻南公園は一時避難所になっていますが準備されている物はありますか？

A2 公園資材としてヘルメット、ロープ、土のう、スコップ、発電機照明器具があります。

Q3 地震などの災害がおきた場合、だれがどのように指示するなど決まっていますか？

A3 公園自衛消防隊があり、園長のもといくつかの班から構成されています

Q4 公園の木の枝や葉を刈る時期はどのようになっていますか？

A4 藻南公園は完成から60年がすぎて、樹木もかなり茂り枝折れの被害が多いので危険な状態の場合すぐ処理します。一般的には秋から冬です。

藻南公園を探検してみました

番号は地図と対応

① 本当にシカがいてびっくりしました。静かでいるので、しばらくお前におることがだいじ。恐さは持ちかえる！

② 岩場は、増水するとすぐに見えなくなるので、足元注意。合流地点も注意。

③ 遊具の後ろ側は、大きな木がたくさんで、人から見えにくいので一人では、絶対に行かない

④ 増水の時は、さくの扉がしまっていて入れないが、絶対、こじあけない。放流の時は、特に注意。

⑤ 遊具広場のうしろは、がけの方に急になっているので、暗いのと、行かない。危ない！

⑥ 交通量が非常に多いので必ず押しボタン式信号機を押して左右を確認して渡る。

⑦ 豊平川のそばで遊んでいる人が多い。深い所もあるので入ってはいけない処を大人といっしょに！

⑧ 橋とのすきまが、岩のがけになっているので、のぞいたりしたら落ちる。下に行かない。

⑨ 傾斜が急なので注意。がけが修理済。

⑩ ブロックべいがこわれていて近づけないようになっている。古い木もあるので危険と思ったら、知らせる。

⑪ 中州川は、行けそうに思うけど、水がちょっとふえるともどれないので、行かない。

⑫ 3mくらい高い岩がある。すき放しんでもくずれないでオシ！上だけ木がはえているし、土だけ、土がおるのかもしれない。

⑬ ここから石をなげくずれ易いので入らないでください。

⑭ おおきくくずれた所はなかったが、数の所、落石があった。地震のせいか、元からひびがあったのか知りたい。

⑮ とにかく傾斜がすごいので、警戒区域にもなっているので、絶対に避難した方がいいと思った。

⑯ でっぱっているがけが地震などでくずれそう。ひびわれもこわくがんじる。

⑰ どんな小さい植物でも大きながけに、刺し根が出て来なくなる所がある場合

⑱ 石のかべの上から、大きな石が欠けておちていた。

⑲ がけがくずれているのに、テープがとれていたので、危ないと思った。

⑳ 草木がおいしげっていて暗いので、こわい感じ。折れ石な枝がたっこうある。

藻南公園には、遊具や炊事場もあり、家族みんなで楽しめる所なので、ルールを守って楽しみましょう

豊平川の近くに住んでいる方たちに聞きました

Q1 近くに豊平川が流れていますが、不安はありますか？ A1 (雪どけや、大雨の時)(45年前川のはん濫で物置が流された)(藻南橋、近くは河川幅が狭く、大雨や集中豪雨時に洪水が発生した場合、汚水のぼっ配)(川上流のダムが崩壊した場合)(不安はなくいやされている)(地球温暖化による集中豪雨)

Q2 自分の住んでいる地域がどのような区域指定になっているか、知っていますか？

A2 (内水氾らんの3m未満、洪水の5m～3m未満、震度分布6弱)(特に重大な地域とは認識していない)(地形上、大丈夫と思っている)(自分の町内会では毎年、区域や避難所の説明もし、「災害発生時の備え」という講座を実施している)

Q3 警戒レベルの表し方が、今3.5.20から変わったのを知っていますか？自分の避難のタイミングはいつと決めていますか？

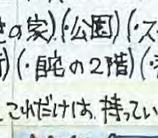
A3 (知っている。・警戒レベル3(小さい子がいるので))(・知らない。・今ニュースを見て知った。)(・知っているが、もと防災意識を持つ必要を感じた)(・知っている。・高齢者がいるので、早目に避難する)(・知っている。・漫水の危険がせまってきた時)(・知っている。・発令前でも早めに行動する)(・知っている。・気象情報を確認し、居住地域が指定された時)

Q4 自宅以外で、避難所を3つ考えるとしたら、どこですか？

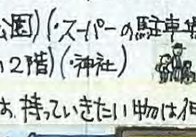
A4 (近くの小学校)(福祉会館)(地区センター)(自宅の方が安全だと思っている)(自分の家より高い所)(実家)(親せきの家)(公園)(スーパーの駐車場)(大学)(ペットのつれていける場所)(自宅の2階)(神社)

Q5 自宅が避難しなければならない時、これだけは、持っていきたい物は何ですか？

A5 貴重品、着替え、マイナンバーカード、薬、マスク、現金、携帯電話、保険証、食料、電池、毛布、防災バッグ、ポータブル電源、折りたたみポリタンク、スリッパ、体温計、犬、ヘルメット、懐中電灯、手回し充電ラジオ、防寒具、水、(色々持っていきたいが、命が大切、生きていればなんとかなる！)



(避難についての正解というものはない。一人一人が一番良いと思うしかたで、安全を確保できればいい)



想定される浸水の深さ

洪水の際に地面が削られるおそれのある区域

流速が速く木造家屋が倒壊するおそれのある地域

土砂災害警戒区域(急傾斜地)

土砂の移動方向

指定避難所

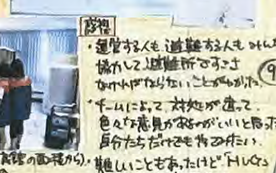
川　橋　道路　等高線

縮尺 0 50m

緑地

研修会

2022年8月、藻岩小で、札幌市危機管理室が、避難運営訓練を行いました。市職員の方、先生達、地域の人たちが実際、災害が起きた時に、どのように避難所を作り、運営していくかというもので、備蓄品や、発電機を見たり、「HUG」という避難所運営ゲームの、札幌市の冬コロナ対策編もしました。



感想
- 運営するのも、避難するのも、みんなが協力して、避難所ですることがわかりやすいことがいい。
- ゲームによって、対処が違って、色々な意見がでるのがいいと思った。自分たちだけでは、気づかない。
- 難しいこともあったけど、「HUG」なゲームは、おもしろかった。

コロナ禍、水降は、家族ごとに、今までより、距離をとったり、感染対策も重視される。

川で事故にあわないために、気をつけることは？

① 川に近づかない!!
② 遊んでいい場所には、必ず大人といく。
③ 中州でバーベキューやキャンプは絶対しない。
④ ライフジャケット着用　⑤ 天候の変化に充分気をつける。

水難救助について、消防署(川沿、白石)に聞きました。(水難救助隊→水による災害や事故の時、出動)

Q1 万が一川に流されたらどうしたらいいですか？

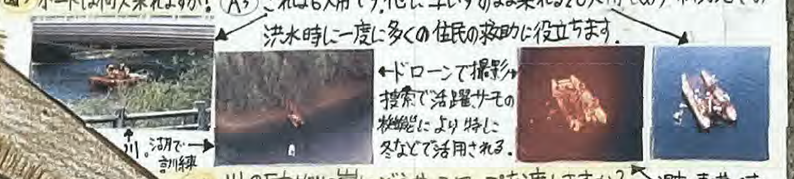
A1 上を向いて、下流側に向けた足のつま先を水面から出して、手でこいで、行きたい岸の方に寄るようにします。「浮いて待て！」

Q2 近くにペットボトルや枝などがあった場合は利用したり息を大きく吸ったりするのがいいですか？

A2 はい、利用した方がいいです。水中での体重は約10分の1になるので、たとえば30kgの人は3kgと考えると2Lのペットボトルがあればそれプラス自分の肺活量(約500cc=0.5Lとした場合)で浮きます。

Q3 ボートは何人乗れますか？

A3 これは6人用です。他に車いすのまま乗れる20人用もあり、市街地での洪水時に一度に多くの住民の救助に役立ちます。



Q4 川の反対側の岸にどうやってロープを渡しますか？

A4 泳いで渡れる所は泳ぎます。ロープを渡す発射銃もあり射程は80mです。ロープのはり方は流れに対して45°位にして流れから受ける力を少なくし、流れの力を利用して岸側へ移動できるようにします。

スーツは流水用と→
潜水用の2種類ある。

今和4年3月に新しくキャビンがバス型の救助車が導入された。キャビン内が広いので動きやすく出動中の車内で資機材の準備が可能

水位の目安

藻南公園

降水前 →あっという間に、水が増えるので注意

降水後

一時避難場所(30.5ha 東京ドーム約6.4個分)

消防学校で着衣水泳を体験

万が一、水に落ちてしまった時、どのようにしたらいいかを、消防士さんに習いました。

1 まずは水着だけで服を着た時との違いを知る

2 次に服を着て歩いてみたらだいぶ動きづらかった。3 次に川などにありそうな物で、どれだけ浮けるか試してみた。

4 ペットボトル、発泡スチロール、ボール、バケツなどを持ってみる

5 発泡スチロールはよく浮いた。ペットボトルは大きめなのだと浮ける。ボールは安定しないのでつかまるのが難しかった。6 ランドセルはどうか？

浮かない事はなかったが教科書などがいっていたら、すきまから水が入って、とても重くなるため。7 そして浮く練習「助けて！」とさけばより、だまって、息を吸って、目前に空気を入れる方が良いそう。静かに待つ。

くつをはいてみだら、足が浮きやすくなった。もちろん、水に落ちないのが一番大事!!

札幌軟石とは

→4万年前、支笏火山の噴火による火砕流が冷えて固まった岩石。加工しやすく耐火性に優れているので、建造物に用いられ、2018年「北海道遺産」に選定された。

←割り出された石を馬車鉄道で運んでいた跡が残っている。
・軟石が積み重ねられている→

南区石山にある「ほすとかん」は、1918年に今の建物に改築され石山郵便局として活躍。

札幌市の都市景観重要建築物に指定されている。

「水と共に生きる」ために、

水は、生きていくために、かかすことのできないものです。川や海で楽しく遊ぶこともありますが、大雨、台風などにより、被害が出ることも多いです。そこで私たちができることは、→1. 自分の住んでいる地域の特徴をよく知り、避難する時になるべく警戒区域を横切るコースをさけて、より安全な道を行くようにする。2. 土砂災害の前ぶれを知ること。3. 増水時に川に近づかない。4. 天気予報やニュースで状況を知る。5. 日ごろから、備蓄品や、持ち出し品を準備

まとめ

地域の方もおっしゃっていましたが、避難時、持っていきたいものはたくさんあるが、「何より命がだいじ」です。自分だけではなく、まわりの人たちとも、声をかけあって助け合うことが、一番大切だと思います。そんな地域になりたいです！

土砂災害の前ぶれ、こんなときは危ない!!

「この地域への提案・願い」を町内会連合会長に聞いてみました

Q1 他の人に「助けて」「手伝って」とは、なかなか言いづらいと思ったので災害時にこのような看板を考えてみましたが、どのように思われますか？

A1 発想はすばらしいと思いますが、災害にあっては、見回りが、だめな時もあるのではないでしょうか？ → 確かにそうですね。では、自立つ色のタオルを振るなどとり残される人がないよう工夫をもっと考えます

Q2 避難訓練は行われていますか？ A2 7.8年前までは、消防車が来て、色々な訓練を体験していましたが、今はなく、防災訓練では講座を行っています。できる訓練ができると防災意識も高くなるのではないでしょうか

Q3 昨年も提案しました「避難所Aの道順、距離」の看板については、どう思われますか？

A3 あったがいいと思いますが、それよりも、地域住民の防災意識を高めることがとても重要です → ここ最近は大きな災害がないのさ、ブラックアウトを経験した後はみんな備品を用意、準備したりしましたが、危機感はうすれていかもしれません。みんなで呼びかけて、より安全な地域になるといいです。色々な年齢の人たちで話し合ったら意見がたくさん出ていいと思います